

第2学年 算数科学習指導案

日 時：平成26年10月9日（木）公開授業Ⅱ

児 童：2年1組 22名

授業者：T1：藤村 秀昭 T2：野崎 千香子

1 単元名 ひっ算のしかたを考えよう「たし算とひき算のひっ算」（東京書籍 2年上）

2 単元について

(1) 教材について

本単元で扱う加法及び減法は、学習指導要領に以下のように位置づけられている。

第2学年 A数と計算

(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

ア 2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ここで扱う加法は、和が3位数になる2位数までの計算であり、繰り上がりが2回になる場合について学習する。また、減法は、被減数が3位数の場合まで拡張し、繰り下がりが2回に及ぶ場合が出てくる。児童は、すでに「たし算のしかたを考えよう」「ひき算のしかたを考えよう」で、2位数+2位数、2位数-2位数についての基本的な筆算形式のしくみを学習してきている。本単元では、既習の2桁の加減の筆算のしくみを利用して、繰り上がりと繰り下がりが2回ある場合の加減の筆算の仕方を児童から見出せるようにすることが、大切な指導内容となってくる。筆算形式は、本単元で繰り上がりと繰り下がり、波及的繰り上がりと繰り下がり（空位の扱い）など筆算の基本的な操作を扱うことになる。指導にあたっては、既習の「たし算とひき算」の指導と同様に数カード等の半具体物を操作して繰り上がりや繰り下がりのしくみを正しく理解させることが大切となる。そして、それが次学年での3位数の計算の仕方を考える学習へと発展することになる。

(2) 児童の実態について

児童は、算数の問題に対して答えを導き出そうと、自分なりに取り組む姿勢がみられる。しかし、理由を問うと答えられなかったり、言葉でうまく表現できなかったりすることが多い。そこでペア学習を、一緒に考えたり、考えを確かなものにしたる機会としている。また、算数的な表現を繰り返し唱えさせることで、誰もが自信をもって発表できる場を意図的に設定するようにしている。そうすることで、全体の場でも発表しようとする児童が増えてきている。しかし、他者依存の傾向は根強く、主体的な表現ができているとはまだ言えない実態である。

1学期の加減の筆算の学習では、筆算の手順の定着を図るために、ブロック操作をしながら計算の仕方を唱える活動を繰り返し行った。ペアや全体で確認する中で、徐々に自信をもって説明できるようになってきたが、まだ、板書や指導者・友だち頼りの児童が多い。本単元の学習の前に実施したレディネステストの正答率は以下のとおりである。

- ・ 2位数+2位数、1位数+2位数の加法の筆算ができるか。 82%
- ・ 問題文から加法の式を立てて、問題を解くことができるか。 80%

・2位数－2位数，2位数－1位数の減法の筆算ができるか。 78%

・(未習内容) 2位数＋2位数＝3位数，3位数－2位数＝2位数の筆算ができるか。27%

以上のことから、既習事項が十分に定着しているとは言えず、また誤答をしている児童がほぼ同じであることが分かった。したがって、本単元の学習では、数カードなどの半具体物を使う活動を十分体験させながら、一人ひとりが自信をもって操作したり、手順を説明したりできるように配慮していきたい。

(3) 仮説にかかわる指導の重点

指導にあたって特に留意する点は、以下の3点である。

① つかむ・見通す言語活動

課題把握の段階では、題意をしっかりつかみ、意欲をもって取り組めるように、わかりやすい問題提示の仕方を工夫したい。その上で、既習事項をふり返りながら、本時との違いや解決の見通しがもてるように児童の言葉をつなげていきたい。

② 考える・確かめる言語活動

自力解決ではノートに計算処理の他に図や言葉による説明をメモの形で書き加えさせることにより、自らの考えを明らかにさせ、学び合いの根拠とする。学び合いでは、解法の妥当性、関連性を中心に話し合いをさせる。特に本単元は、筆算の仕方を数カードの操作や図、式、言葉などと関連づけて考えることが大切である。そして、学び合いで分かった考えを説明することが、筆算の原理や手順を確実につかむ手立てとなるので重点的に扱いたい。

③ まとめる・広げる言語活動

まとめの段階では筆算の手順に番号を付けて箇条書きでまとめさせ、筆算と関連させながら理解を深めさせたい。練習問題に取り組む時間を十分確保し、計算の過程を唱えながら練習させることによって習熟を図る。また、学びをふり返らせ、学習したことを確認したり、次時への意欲づけにしたりしていく。

3 単元の目標

◎既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し、確実にできるようにするとともに、それをを用いる能力を伸ばす。

◎筆算形式による3位数＋1，2位数（百の位への繰り上がりなし），3位数－1，2位数（百の位からの繰り下がりなし）の計算の仕方について理解する。

【関心・意欲・態度】

・2，3位数の加減の筆算のよさに気づき、生活や学習に活用しようとする。

【数学的な考え方】

・既習の筆算を基に、2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現することができる。

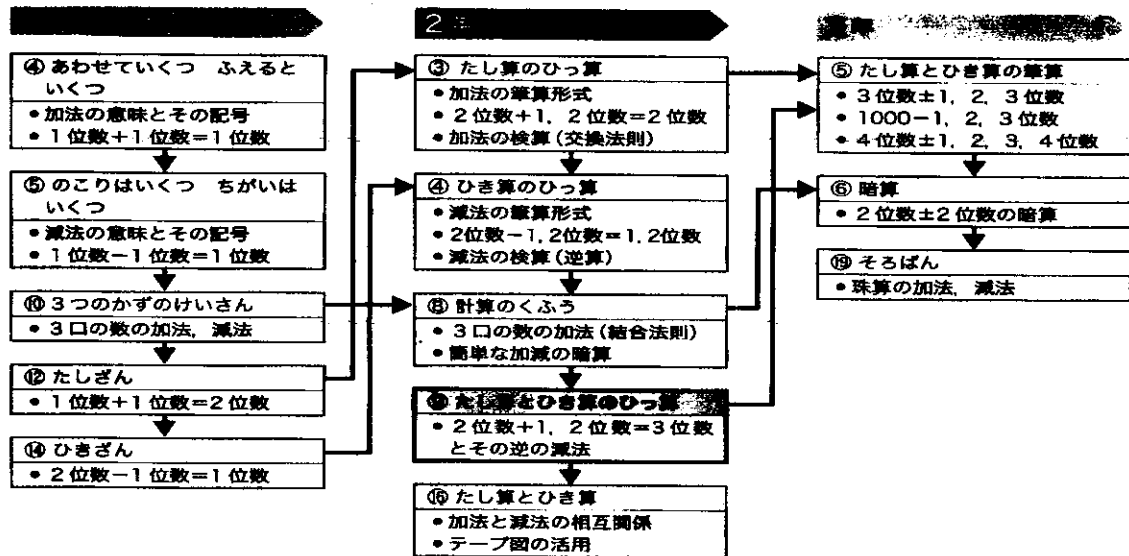
【技能】

・2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。

【知識・理解】

・2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできること知り、それらの筆算に仕方について理解する。

4 教材の関連と発展



5 単元指導計画 (全11時間 本時6/11)

時	目 標	学 習 活 動	評 価 規 準
(1) たし算の ひっ算 上p.80~84 3時間			
1	<p>〔プロローグ〕</p> <p>p. 80の絵から場面を把握し、メダルの数を考えることを通して既習事項を振り返るとともに、p. 81の問題への興味・関心を高める。</p> <p>所要時間は15分程度</p>		
	○2位数+2位数=3位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとりえ、立式する。 83+46の筆算の仕方を考える。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	<p>○ 既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、2位数+2位数=3位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。</p> <p>◎</p> <p>○ 2位数の加法の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。</p>
2	○2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 76+58の筆算の仕方を考える。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 46+57, 93+8の筆算の仕方を考える。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	<p>○ 既習を基に、2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方を考え、説明している。</p> <p>◎</p> <p>○ 2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算ができる。</p>
3	○学習内容を適用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	○学習内容を適用して、問題を解決することができる。
(2) ひき算の ひっ算 上p. 85~89 4時間			
1	○3位数-2位数(百の位から	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとりえ、立式す 	○既習の減法との違いをとらえ、既習

	の繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	る。 ・129-53の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	の筆算の仕方を基に、3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。◎ 図2位数の減法の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。○
2	○3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・146-89の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	図既習を基に、3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考え、説明している。◎ 図3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算ができる。○
3 本 時	○3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・102-65の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	図既習を基に、3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を考え、説明している。◎ 図3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算ができる。○
4		・計算練習をする。 ・文章題に取り組む。	
(3) 大きい数のひっ算 p.90~91 2時間			
1	○3位数+1, 2位数(百の位への繰り上がりなし)や3位数-1, 2位数(百の位からの繰り下がりなし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	・415+32の筆算の仕方を、15+32を基に考える。 ・348-25の筆算の仕方を、48-25を基に考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。	図3位数±1, 2位数の筆算の仕方が、1位数などの基本的な計算を基にできることを理解している。
2	※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。	・18+345, 526+9の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。 ・483-27, 524-6の筆算の仕方を考え、それらの計算練習をする。	
まとめ 上p.92~93 2時間			
1	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
2	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげのもんだい」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

6 本時の指導

(1) 目標

3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、説明することができる。

(2) 本時の評価規準

評価規準	指導の手立て
波及的繰り下がりのある筆算を、既習を基にして説明しながら計算することができる。(考)	数カードを使いながら、十、一の位へ波及的繰り下がりを意識させる。

(3) 本時の指導について

本時の指導では次の点に重点を置いて指導にあたる。

①かかわり合いのある言語活動① つかむ・見通す言語活動

・既習の問題と本時の問題の違いに気づかせることで、本時の課題を明確にする。

②かかわり合いのある言語活動② 考える・確かめる言語活動

・学び合いの場では、筆算と数カードの操作の妥当性や、関連性を検討させ、理解を深めさせる。

③かかわり合いのある言語活動③ まとめる・広げる言語活動

・友だちとの関わり合いながら解決できたことや、既習を生かして解決できたことについて、自分の感想をもつ。

(4) 展開

種	学習活動	指導上の留意点及び評価									
<p>つかむ・見通す</p> <p>7分</p>	<p>1 前時の想起をする。</p> <p>2 問題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>102-65のひっさんのしかたをか んがえよう。</p> </div> <p>・既習と違うところを見つける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◎かかわり合いのある言語活動① ペアで話し合い、波及的繰り下がりがあ ることに気づく。</p> </div> <p>3 課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>十のくらいが0のひっさんのしかたを かんがえよう。</p> </div> <p>4 課題解決の見通しをもつ。</p> <p>(1) 求め方の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算、数カード <p>(2) 答えの見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30(40)くらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・146-89の筆算の仕方を全員で確認する。 ・筆算を書き、十の位から繰り下がりができな いことに気づかせる。 ・各解決法について見通しを立ててから、自力 解決に入る。 ・概数にして100-60(70)をして、答 えの予想をする。 									
<p>考える</p> <p>5分</p>	<p>5 自力解決をする。</p> <p>(1) 数カードを操作し、答えを求める。</p> <table border="1" style="margin: 10px auto; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30px;">百</th> <th style="width: 30px;">十</th> <th style="width: 30px;">一</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">100</td> <td></td> <td style="text-align: center;">1 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">5</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 筆算で答えを求める。</p> $\begin{array}{r} 9 \\ \cancel{1} \cancel{0} 2 \\ - 65 \\ \hline 37 \end{array}$	百	十	一	100		1 1		6	5	<ul style="list-style-type: none"> ・早く終わった児童には、手順をノートに書か せる。
百	十	一									
100		1 1									
	6	5									

<p>確かめる</p> <p>20分</p>	<p>6 学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表する。 <p>(1) 数カード操作</p> <p>(2) 筆算の仕方</p> <p>①はじめは、かならず一のくらい ②2-5はできません ③十のくらいから1くりさげ、できません ④百のくらいから1くりさげる ⑤十のくらいから1くりさげる ⑥12-5は7 ⑦十のくらいのけいさん 9-6は3 ⑧こたえは37</p> <p>◎かかわり合いのある言語活動② 学び合いで、数カードでの操作と筆算の手順を関連づけてとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方をペアで確かめ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ、代表児童に操作をしてもらう。 ・自分の考えと同じところはないか考えながら、友達の発表を聞くように声をかける。 ・百の数カードを十の数カードに変えることと筆算の操作を結びつける。 ・十の位から1繰り下がって、十の位が9になることと筆算を結びつける。 <p>考 3位数-1, 2位数(十, 百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を考え、説明することができる。</p>
<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>7 学習のまとめをする。</p> <p>百のくらいからじゅんにくり下げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、百の位から繰り下げるのか、確かめる。
<p>広げる</p> <p>8分</p>	<p>8 適用問題を解く。</p> <p>9 本時の学習をふり返り、次時の予告をする。</p> <p>◎かかわり合いのある言語活動③ 友だちとの関わり合いながら解決できたことや、既習を生かして解決できたことについて、自分の感想をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の手順を唱えながら、筆算を行う。 ・学習をふり返り、感想を発表させる。

(5) 板書計画

10/9

102-65のひっさんのしかたをかんがえよう。

十のくらいが0のひっさんのしかたをかんがえよう。

百のくらいからじゅんにくり下げる。

百	十	一
100		1 1
	6	5

$$\begin{array}{r} 102 \\ - 65 \\ \hline 37 \end{array}$$

① $\begin{array}{r} 103 \\ - 47 \\ \hline \end{array}$ ② $\begin{array}{r} 105 \\ - 8 \\ \hline \end{array}$

①はじめは、かならず一のくらい
 ②2-5はできません
 ③十のくらいから1くりさげ、できません
 ④百のくらいから1くりさげる
 ⑤十のくらいから1くりさげる
 ⑥12-5は7
 ⑦十のくらいのけいさん
 9-6は3
 ⑧こたえは37

第2学年 算数科学習指導案

日 時：平成26年10月9日（木）公開授業Ⅰ

児 童：2年2組 20名

授業者：T1:新沼 綾子 T2:野崎 千香子

1 単元名 ひっ算のしかたを考えよう「たし算とひき算のひっ算」（東京書籍 2年上）

2 単元について

(1) 教材について

本単元で扱う加法及び減法は、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第2学年 A数と計算

(2) 加法及び減法についての理解を深め、それらを用いる能力を伸ばす。

ア 2位数の加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

イ 簡単な場合について、3位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えること。

ウ 加法及び減法に関して成り立つ性質を調べ、それを計算の仕方を考えたり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ここで扱う加法は、和が3位数になる2位数までの計算であり、繰り上がりが2回になる場合について学習する。また、減法は、被減数が3位数の場合まで拡張し、繰り下がりが2回に及ぶ場合が出てくる。児童は、すでに「たし算のしかたを考えよう」「ひき算のしかたを考えよう」で、2位数+2位数、2位数-2位数についての基本的な筆算形式のしくみを学習してきている。本単元では、既習の2桁の加減の筆算のしくみを利用して、繰り上がりと繰り下がりが2回ある場合の加減の筆算の仕方を児童から見出せるようにすることが、大切な指導内容となってくる。筆算形式は、本単元で繰り上がりと繰り下がり、波及的繰り上がりと繰り下がり（空位の扱い）など筆算の基本的な操作を扱うことになる。指導にあたっては、既習の「たし算とひき算」の指導と同様に数カード等の半具体物を操作して繰り上がりや繰り下がりのしくみを正しく理解させることが大切となる。そして、それが次学年での3位数の計算の仕方を考える学習へと発展することになる。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、具体物の操作に意欲的である。1学期の加減の筆算では、ブロック操作を主にしたのだが、楽しそうに操作していた。しかし操作をさせる際に、ブロック操作と筆算の仕方とを関連付けた指導が弱かったため、今回のレディネステストでは、特に引き算の筆算で正答率が低かった。

本学級は、話し合いに対し消極的な傾向が強い。特にペア学習でそのような傾向がみられる。何を話せばよいの分からずに黙っていたり、学習と関係のない話になってしまったりすることが多く、配慮を要する。ただし、グループ活動の際には、自分の意見を言えるので、より少数人においても個々が自分の意見を言えるように、話し合う内容を簡単にする、体を向け合うな

ど、指導しているところである。

本単元の学習の前に実施したレディネステストの正答率は以下のとおりである。

- ・ 2位数+2位数, 1位数+2位数の加法の筆算ができるか。 85%
- ・ 問題文から加法の式を立て, 問題を解くことができる。 85%
- ・ 2位数-2位数, 2位数-1位数の減法の筆算ができるか。 55%
- ・ (未習内容) 2位数+2位数=3位数, 3位数-2位数=2位数の筆算ができるか。 25%

引き算で誤答している児童が多く, 特に, 被減数に空位があるもので誤答した児童が3名, ひかれる数, ひく数関係なく, ひける方からひいている児童が3名であった。数カードの操作が少なく, 0が何も無いということを理解しきれていなかったり, 上から下をひくということの徹底が完全ではなかったことが, 原因だと考えられる。よって本単元の指導にあたっては, 数カードの操作の時間を十分に確保すること, 被減数から数を引くことを特に配慮して指導していきたい。

(3) 仮説にかかわる指導の重点

指導にあたって特に留意する点は, 以下の3点である。

① つかむ・見通す言語活動

課題把握の段階では, 題意をしっかりとつかみ, 意欲をもって取り組めるように, わかりやすい問題提示の仕方を工夫したい。その上で, 既習事項と比べながら, 本時との違いや解決の見通しをもたせたい。

② 考える・確かめる言語活動

自力解決では個々の能力に応じて, ノートに計算処理の他に言葉による簡単な説明をメモの形で書かせることにより, 自らの考えを明らかにさせ, 学び合いの根拠とする。学び合いでは, 解法の妥当性, 関連性を中心に話し合いをさせる。特に本単元は, 筆算の仕方を数カードの操作や式, 言葉などと関連づけて考えることが大切である。そして, 学び合いで分かった考えを説明することが, 筆算の原理や手順を確実につかむ手立てとなるので重点的に扱いたい。

③ まとめる・広げる言語活動

まとめの段階では, 筆算の仕方と数カードとを関連させながら理解を深めさせたい。練習問題に取り組む時間を十分確保し, 計算の過程を唱えながら練習させることによって習熟を図る。また, 学びをふり返らせ, 学習したことを確認したり, 次時への意欲づけにしたりしていく。

3 単元の目標

◎既習の筆算を基に, 2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方について理解し, 確実にできるようにするとともに, それを用いる能力を伸ばす。

◎筆算形式による3位数+1, 2位数(百の位への繰り上がりなし), 3位数-1, 2位数(百の位からの繰り下がりなし)の計算の仕方について理解する。

【関心・意欲・態度】

- ・ 2, 3位数の加減の筆算のよさに気づき, 生活や学習に活用しようとする。

【数学的な考え方】

- ・ 既習の筆算を基に, 2位数の加法及びその逆の減法の筆算の仕方を考え表現することができる。

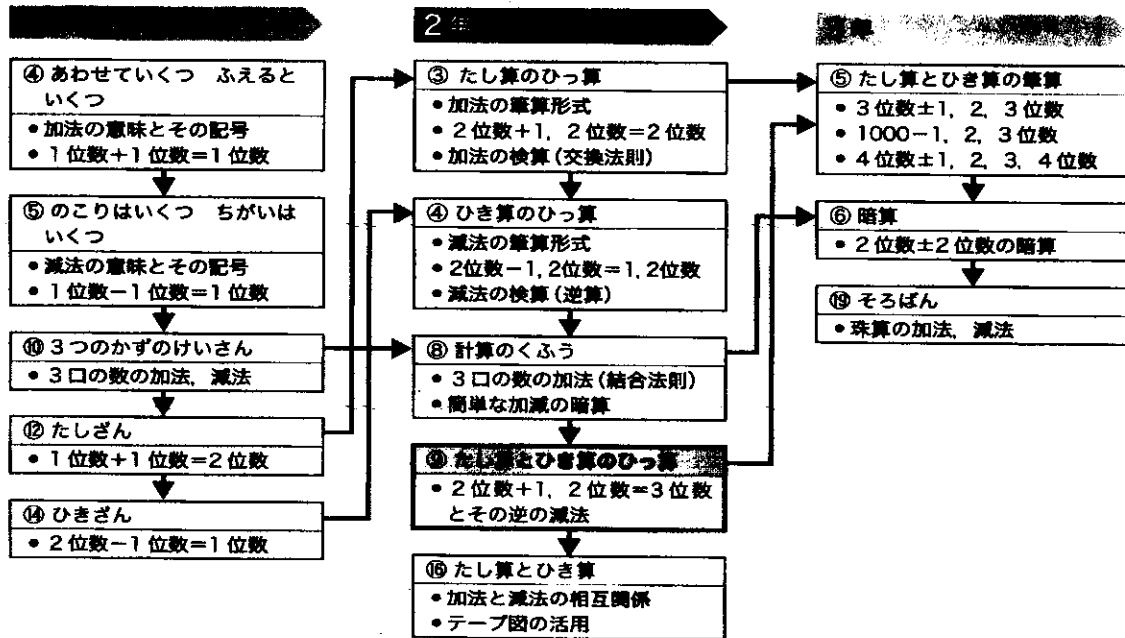
【技能】

- ・2位数の加法及びその逆の減法の計算について、筆算の手順を基に、確実に計算することができる。

【知識・理解】

- ・2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などの基本的な計算を基にできること知り、それらの筆算の仕方について理解する。

4 教材の関連と発展



5 単元指導計画 (全11時間 本時5/10)

時	目 標	学 習 活 動	評 価 規 準
(1) たし算の ひっ算 上p.80~84 3時間			
1	<p>【プロローグ】</p> <p>p.80の絵から場面を把握し、メダルの数を考えることを通して既習事項を振り返るとともに、p.81の問題への興味・関心を高める。</p> <p>所要時間は15分程度</p>		
	○2位数+2位数=3位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 ・83+46の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 	<p>図既習の加法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、2位数+2位数=3位数(百の位への繰り上がりあり)の筆算の仕方を考えようとしている。◎</p> <p>図2位数の加法の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。</p> <p>○</p>
2	○2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への	<ul style="list-style-type: none"> ・76+58の筆算の仕方を考える。 ・筆算の仕方をまとめる。 ・計算練習をする。 ・46+57, 93+8の筆算の仕方を考える。 	<p>図既習を基に、2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算の仕方</p>

	波及的繰り上がりあり) の筆算の仕方を理解し、 その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	を考へ、説明している。◎ 図2位数+2位数=3位数(十、百の位への繰り上がりあり)や、2位数+1, 2位数=3位数(百の位への波及的繰り上がりあり)の筆算ができる。○
3	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
(2) ひき算の ひっ算 上p.85~89 4時間			
1	○3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面から数量の関係をとらえ、立式する。 129-53の筆算の仕方を考へる。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	図既習の減法との違いをとらえ、既習の筆算の仕方を基に、3位数-2位数(百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考へようとしている。◎ 図2位数の減法の計算が1位数の計算を基にしてできることを理解している。 ○
2 (本時)	○3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 146-89の筆算の仕方を考へる。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	図既習を基に、3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算の仕方を考へ、説明している。◎ 図3位数-2位数(十、百の位からの繰り下がりあり)の筆算ができる。○
3	○3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 102-65の筆算の仕方を考へる。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	図既習を基に、3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算の仕方を考へ、説明している。 ◎
4		<ul style="list-style-type: none"> 計算練習をする。 文章題に取り組む。 	図3位数-1, 2位数(十、百の位からの波及的繰り下がりあり)の筆算ができる。○
(3) 大きい数の ひっ算 p.90~91 2時間			
1	○3位数+1, 2位数(百の位への繰り上がりなし)や3位数-1, 2位数(百の位からの繰り下がりなし)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 415+32の筆算の仕方を、15+32を基に考へる。 348-25の筆算の仕方を、48-25を基に考へる。 筆算の仕方をまとめる。 計算練習をする。 	図3位数±1, 2位数の筆算の仕方が、1位数などの基本的な計算を基にできることを理解している。
2	※本小単元の内容は、「スパイラルのため重複させる内容」であり、次学年で確実な習得をねらう。	<ul style="list-style-type: none"> 18+345, 526+9の筆算の仕方を考へ、それらの計算練習をする。 483-27, 524-6の筆算の仕方を考へ、それらの計算練習をする。 	

まとめ 上p.92~93 2時間			
1	○学習内容を適用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	図学習内容を適用して、問題を解決することができる。
2	○学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげのもんだい」に取り組む。	図基本的な学習内容を身につけている。

6 本時の指導

(1) 目標

3位数－2位数（十、百の位からの繰り下がりあり）の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。

(2) 本時の評価規準

評価規準	指導の手立て
既習を基に、3位数－2位数の筆算の仕方を説明し、計算することができる。（考）	数カードの操作、既習事項との関連づけにより、児童に捉えさせる。

(3) 本時の指導について

本時の指導では次の点に重点を置いて指導にあたる。

① かかわり合いのある言語活動② 考える・確かめる言語活動

・学び合いの場では、数カードの操作と筆算の数処理を関連付け、理解を深めさせる。

② かかわり合いのある言語活動③ まとめる・広げる言語活動

・広げる場では、ペアで手順を説明しながら答え合わせをすることによって、定着を図る。

(4) 展開

時	学習活動	指導上の留意点及び評価
つかむ・見通す	1 前時を想起する。 2 問題を把握する。 146－89のひっさんのしかたを考えましょう。 ・既習と違うところを見つける。	・3位数－2位数のひき算の筆算の仕方を確認する。 ・出てこない時は黒板に筆算を書いてみせる。 ・繰り下がりが何回ありそうか、考えさせる。
7分	3 課題を把握する。 2かいくり下がりのある、ひきざんのひっさんのしかたをかながえよう。 4 課題解決の見通しをもつ。 ・答えの見通し…50, 60 ・求め方の見通し…数カード、筆算	・140－90, 150－90 ・答えが50から60の間になることを押さえる。

<p>考える</p> <p>5分</p>	<p>5 自力解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数カードを操作し、答えを求める。 <table border="1" data-bbox="211 276 768 519"> <thead> <tr> <th>百</th> <th>十</th> <th>一</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">□</td> <td style="text-align: center;">□ □ □</td> <td style="text-align: center;">□ □ □ □ □</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">9</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・筆算で答えを求める。 $ \begin{array}{r} 10 \\ 3 \ 10 \\ \sqrt{146} \\ \underline{\quad} \\ 89 \\ \underline{\quad} \\ 57 \end{array} $	百	十	一	□	□ □ □	□ □ □ □ □		8	9	<ul style="list-style-type: none"> ・数カードでも一の位からひいていくことに気をつけさせる。 ・数カードの操作が終わった児童には、筆算にも取り組ませる。 <ul style="list-style-type: none"> ・筆算をする際、書ける児童には簡単なメモを書かせる。(簡単なキーワード)
百	十	一									
□	□ □ □	□ □ □ □ □									
	8	9									
<p>確かめる</p> <p>18分</p>	<p>6 学び合いをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考えを発表する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎かかわり合いのある言語活動② 数カードの操作と筆算の手順を関連づけてとらえさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・◎児童—◎児童 ・◎教師—◎全児童 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・146－89の筆算の手順をまとめる。 <ol style="list-style-type: none"> ① はじめに一の位の計算… ② 次に十の位の計算… ③ 答えは… <ul style="list-style-type: none"> ・再度146－89を何も見ずに解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童を1人ずつ前に出し、数カードの操作と関連づけながら筆算をさせる。 ・お互いの活動を見ながら操作を一致させられるよう留意する。 ・手順を声に出して言わせるようにする。 ・繰り下がりのななめ線と1を必ず書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>考 既習を基に、十、百の位から繰り下がりのある3位数－2位数の筆算の仕方を考え、説明することができる。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各自手順を唱えながら解かせる。 									
<p>まとめる</p> <p>5分</p>	<p>7 学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>一のくらいがひけない時は、十のくらいから1くり下げて計さんする。</p> <p>くり下がりが2かいある時でも、一のくらいからじゅんに計算する。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉でまとめを作っていく。 ・まとめと関連させながら、筆算の手順も声に出して読ませる。 									

広 げ る	8 適用問題を解く。 ① 125-49 は全員で確認する。 ② 113-65 からは個々で進め、時間がきたらペアで手順を説明しながら答え合わせをする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 技 十、百の位から繰り下がりのある3位数-2位数の筆算ができる。 </div> <p>・前時に学習したことと比べてどうだったか、振り返らせる。</p>
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ◎かかわり合いのある言語活動③ ペアで手順を説明しながら、答え合わせをする。 </div> 9 本時の学習をふり返り、次時の予告をする。	
10 分		

(5) 板書計画

146-89のひっさんのしかたをかんがえましょう。

◎2かいくり下がりがある、ひきさんのひっさんのしかたをかんがえよう。

ひっさんのしかた
 ①
 ②
 ③

◎一のくらいがひけない時は、十の位から1くり下げて計算する。
 くり下がりが2かいある時でも、一のくらいからじゅんに計算する。

④60くらい
70くらい
<方ほう>
数カード
ひっさん

百	+	-

146	
- 89	

1